



【感染症だより】

～インフルエンザについて～

今シーズンのインフルエンザは、一度に A 型と B 型が流行したため、全国の感染者数が過去最高を記録しました。当院の 1 月の結果も、同様にインフルエンザが最高記録となりました。

インフルエンザの診断は、昔は迅速検査キットが無かったため、医師の診察（理学所見）だけで診断していました。迅速検査キットが普及してからは、微熱で元気であってもインフルエンザと診断されるケースが見つかるようになり、マスコミでも「隠れインフルエンザ」と報道されるまでになりました。微熱程度で、軽い症状のインフルエンザも大勢いる、という事になります。軽症のインフルエンザであれば、特にインフルエンザ薬を使用せずとも人間に備わった免疫力で自然治癒します。しかし、伝染力には重症軽症関係がありません。つまり、保育園などで集団生活をしている方は、感染拡大を防ぐために検査が必要、という事になります。病院で受けるインフルエンザ迅速検査は、鼻水や、鼻腔内ぬぐい液を採って 10 分程度で結果が出ますが、現在一般に使用されている検査キットは、意外に検出率が良くありません。発熱から時間が経っていないと、検出率が低くなります。つまり、病初期（発熱から 24 時間以内）では偽陰性が増えるという事になります。ですので、病初期に検査を受けられて陰性だった方には、翌日再診していただき、再検査を実施しています。それでも、2 日目には陰性で、3 日目ようやく陽性が出ることもあり、検査を 100%信じることは出来ません。ご本人の具合がよほど悪い状態でなければ、発熱から 1 日経ってから（少なくとも 6 時間は経過してから）の検査をお勧めしています。インフルエンザ薬は発熱から 48 時間以内に開始すれば有効です。発熱からの経過時間がカギになりますので、インフルエンザの流行期は体温計で検温して様子を見ましょう。

また、ご家族がインフルエンザと診断されていて接触が明らかで、典型的な症状の場合には、検査結果をあてにせず、診察のみでインフルエンザと診断することもあります。

表：1 月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザ B	193
2	インフルエンザ A	104
3	胃腸炎(内 5 件)	72
4	溶連菌	45
5	アデノウイルス	2
6	突発性発疹	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

ご予約時に満室でお断りする事がありますが、当日朝キャンセルされるも少なからずおられますので、当日朝、お電話予約再度チャレンジされることをお勧めしています。

文責： 清水マリ子

